様式4　　令和5年2月10日

令和4年度　　学校関係者評価及び改善策

（ 中間・最終 ）　　両城中学校区　校番　14　学校名　呉市立両城中学校

評価項目	※評価	理由・意見
目標，指標の設定の適切さ	A	指標，目標が設定が，年度の終期である現在においても，維持されている。中間の反省点や指向が，教職員間において，共有されていることが伺える。学校としての一貫的な教育の目的が明確であり，かつこれが年間を通じて維持されたことは，評価委員会としては，評価できる。来年度に向けての，礎になることを期待したい。本年度の事象や実行した教育が，次年度に結ばれることを期待したい。
目標達成のための方策の適切さ	A	中間評価からの発展的方策が，見受けられる。一貫とした方策は，理解できるものであり，これからも新規性のある方策を模索していただきたい。新規性のある方策，より良い方策を模索することは，難しいことであると思われるが，その模索が学校としての発展になると思われる。その方策を探索的に試行していただきたい。方策の選択については，その困難さは否定できないが，積極的に，特色ある方策を次年度も実践していただきたい。
自己評価の結果の分析の適切さ	A	適切な評価，分析がなされていると評価できる。厳しい見方による内容の評価として，次年度に結びつけようとする姿勢が伺える。自己評価には，お手盛り手法というものがありがちであるが，そのようなものもなく，適切な自発的評価であると思われる。次年度も自己評価を意識しながら，学校運営がなされることを期待したい。
今後の改善策（案）の適切さ	A	反省点，問題点を詳細に分析し，改善していこうという姿勢が伺える。ただ，改善の意向等があっても，実行に移すことが必然であり，重要である。その点を意識して，創意工夫のある改善策が望まれる。改善策は，次年度に結びつくものであり，次年度の目標、設定に繋げて欲しい。それにより，継続的な教育，一貫とした教育が図れると思われる。
その他	新型コロナ感染症の影響下のもと，学校教育も，その実践，実行において大きな影響が生じた年であった。その中においても，教育の質を低下させることなく，生徒の意識向上に取り組む姿勢が伺える。防災等についての取組は，特記すべきことであろう。教職員の努力及び熱意を感じさせる。多くの困難がある環境のもと，生徒たちの心身の安全を維持しながら，教育向上への活動が今後も継続されることに期待したい。	

※　評価は，A（とても適切），B（概ね適切），C（あまり適切でない），D（まったく適切でない），N（分からない）

学校関係者評価を受けての今後の改善策	本校の取組について，積極的な評価をいただいた。現在の取組を継続すると共に，各取組についてPDCAを確実に実施し，さらによい取組にしていき，生徒全員の笑顔につなげていく。 〇ICTの活用をさらに推進し，主体的な学び（「考える授業」づくり）の実現に向けて，「教えて考えさせる授業」を柱に，さらに授業改善を進め，学校全体の授業力と生徒の学力を向上させる。 〇生徒の自己指導能力をさらに高めるとともに，生徒の学習に関するメタ認知を向上させ，学力の定着を図る。 〇「自己を認識し，自分の人生を選択し，表現することができる力」を向上させる。 〇生徒主体の授業づくり・学校生活づくりをさらに推進し，学校に対する誇りと自信をさらに持たせる。 〇防災教育の充実を図り，「自分の命は自分で守る」力をさらに向上させる。 〇時間の3点固定の取組（勉強を始める時間・就寝時間・起床時間の時間を日記に記入）とPTA宣言を守る取組を保護者と協力して推進し，生徒が自分の生活を自分でコントロールし，主体的に生活習慣を確立するように指導する。 〇働き方改革を推進し，教職員が意欲と能力を発揮できる環境を整備する。